

平成 22 年度 第 4 回常任委員会 議事録

日 時： 平成 22 年 11 月 22 日（月） 14:00～17:00

場 所： 土木学会 講堂

出席者： 宮川委員長，岸幹事長，

入矢，上田，宇治，岡澤，金津，鎌田，河合，河野，黒田，坂井，塚，佐藤（勉），島，新藤，
武若，堤，富田，中村，西垣，二羽（代理：山村），橋本，前川，丸山，睦好，横田，の各常
任委員，

佐藤，信田，服部の各幹事，村木（事務局）

配布資料：

- 4-0 平成 22 年度 第 4 回常任委員会 議事次第
- 4-1 平成 22 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会 議事録（案）
- 4-2 委託研究願
- 4-3 土木学会コンクリート委員会コンクリートのポンプ施工指針改訂小委員会 委員構成（案）
- 4-4 土木学会高流動コンクリート指針 委員（案）
- 4-5 コンクリート委員会 3 種委員会設置提案書
- 4-6-1 委員構成 調査研究部門／コンクリート委員会
- 4-6-2 2012 コンクリート標準示方書「共通編」部会構成
- 4-6-3 2012 版コンクリート標準示方書 施工編部会構成員（案）
- 4-6-4 土木学会コンクリート委員会 規準関連小委員会 委員構成（案）
- 4-6-5 CO₂削減を考慮したコンクリート構造物の解体，再利用，補修技術に関する調査研究小委員会
委員構成（219 委員会）
- 4-7-1 コンクリート委員会次期委員長推薦投票方法
- 4-7-2 土木学会コンクリート委員会次期委員長推薦投票について（ご依頼）
- 4-7-3 土木学会コンクリート委員会 平成 22 年第 4 回常任委員会 開催について（ご通知）
- 4-8 平成 21 年度調査研究委員会の活動度評価の結果について（報告）
- 4-9 平成 23 年度事業計画及び予算要求調書
- 4-10 Recommendation for Design and Construction of Prestressed Concrete Structures
Using Advanced Prestressing Steel Coated with Epoxy Resin
- 4-11-1 平成 23 年度全国大会共通セッションテーマの募集
- 4-11-2 部門別セッション名
- 4-11-3 平成 23 年度全国大会特別セッションテーマの募集
- 4-12 平成 23 年度重点研究課題助成の募集について
- 4-13-1 土木学会コンクリート委員会 構造物表層のコンクリート品質と耐久性能検証システム研究
小委員会
- 4-13-2 土木学会コンクリート委員会 コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究

小委員会（第2期）（JSCE339委員会）委員構成（案）

- 4-14-1 構造物の設計におけるコンクリートの収縮の考慮に関する講習会（示方書改訂小委員会収縮ケーススタディー作業部会成果報告）
- 4-14-2 2010年制定コンクリート標準示方書「規準編」講習会「性能照査型コンクリート示方書の実現に資する規格・規準群を目指して」開催報告

議事

1. 委員長挨拶（宮川委員長）

2. 平成22年度第2回常任委員会議事録の確認【資料4-1】

信田幹事より前回常任委員会の議事録案が報告され、異議なく承認された。

3. 審議事項

(1) 委託研究「コンクリート施工の信頼性向上並びに合理化促進に関する調査研究」【資料4-2】

信田幹事より説明があった。

- ・委託者代表が大林組、鹿島建設、清水建設、大成建設の4社で、合計13の企業・機関からなる研究の委託である。
- ・委託期間は約1年間で委託予定金額が490万円である。
- ・この委託研究願は、近々理事会に提出される予定である。

これに対し以下の質問があった。

- ・コンクリート標準示方書の施工編で、この委託研究の成果を参照することでページ数を減らすような利用の仕方を行って良いか。

→引用の方法などを施工編部会で議論の上活用してほしい。（宮川委員長）

(2) コンクリートのポンプ施工指針改訂小委員会委員構成【資料4-3】

宮川委員長より、委員構成が提案され承認された。

(3) 高流動コンクリート施工指針改訂小委員会委員構成【資料4-4】

宮川委員長より、委員構成が提案され承認された。また、岸幹事長より、資料の上段が委託者、下段が受託者であるとの補足があった。

(4) 第3種委員会コンクリート構造物の設計と維持管理の連携による性能確保システム研究小委員会の設置について【資料4-5】

宮川委員長より小委員会の概略が説明された後、小委員会の委員長予定である横田委員より具体的な調査・検討内容の説明がなされた。以下に主な議論を示す。

- ・設計と維持管理の連携、とあるが人ではない場合も「連携」と言うのか？

→調べた上で必要に応じて再考する。

(※その後の検討の結果、「連携」を「連係」とすることになった。)

- ・示方書を意識せずに活動するのが良いのではないか。

→横目では見つつ、進めさせていただきたい。

- ・事前に考えることと事後に考えることの両者を対象とするのか？

→その通り。

・成果のアウトプットのイメージ（示方書のどこに反映させるのか）は何か？

→調査検討項目の④と⑤は共通編に関わる成果であろう。

(5) 1種・2種小委員会委員追加・変更【資料 4-6-1, 4-6-2, 4-6-3, 4-6-4, 4-6-5】

宮川委員長より、以下の委員の追加・変更の説明があり、異議なく承認された。

- ・コンクリート委員会：全国生コン工業組合連合会 鈴木一雄氏から城国省二氏へ交代。
- ・示方書「共通編」部会：伊代田岳史氏（芝浦工業大学）と木野淳一氏（東日本旅客鉄道）の追加。
- ・示方書「施工編」部会：上田洋氏（鉄道総研）の追加。
- ・規準関連小委員会：小川洋二氏（太平洋コンサルタント）から森寛晃氏（太平洋セメント）へ交代。
- ・219委員会：前田敏也氏が委員から幹事へ変更。堀井久一氏（コニシ）が追加。

(6) 次期委員長推薦投票【資料 4-7-1, 4-7-2, 4-7-3】

信田幹事より、次期コンクリート委員会委員長の推薦投票方法、投票用紙、欠席時の委任状に関する説明があった。郵便投票の期限は平成 23 年 1 月 21 日 17:00 であること、開票は 1 月 24 日であることが説明された。また、資料 4-7-2 に「同封の投票方法および内規等」とあるが、これを「同封の投票方法をご精読」と修正することが、また、内規はコンクリート委員会ホームページに掲載されていることが補足された。

(7) その他

なし。

4. 報告事項

(1) H21 年度コンクリート委員会活動度評価結果【資料 4-8】

信田幹事より、平成 21 年度の調査研究部門会議によるコンクリート委員会の活動度評価の結果が A 評価（評価項目 I：行事参加数、評価項目 II：収益、評価項目 III：活動度）であったことが説明された。加えて、今年度は評価項目 III に対し 5 つのコメントがあり、総じて高い評価が与えられていることが補足された。

(2) H23 年度事業計画及び予算要求調書（調査研究費分）【資料 4-9】およびコンクリート標準示方書の編集予算要求

岸幹事長より説明があった。

- ・平成 23 年度の事業計画には、環境調和型コンクリート材料学の創造に関する研究小委員会による講習会と施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会による講習会を挙げた。
- ・例年、1100 万円の仕掛金が用意されているが、来年度は活動が活発化すると予想されるため、仕掛金を 1400 万円に引き上げ、活動費用の実施総額を 1500 万円とした。

それに対し以下の質疑があった。

- ・219 委員会の活動予定期間は 1 年間であるが、2 年目も活動を行う可能性はあるのか？

→これまでの例に照らし合わせると、2 種委員会としての活動をいったん終了し、3 種委員会として継続することが多い。

→重要なテーマでもあり次期委員長には研究の継続を期待したい。（宮川委員長）

(4) コンクリートライブラリー133 エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工指針（案）（CL133）英訳版【資料 4-9】

二羽委員の代理として、小委員会幹事長の山村氏より説明があった。

- ・ 本年 8 月にコンクリートライブラリー133 号として出版した。150 人程度の参加者であった。
 - ・ 英訳の指針を作成した。オリジナルは 300 ページだが、本文のみを英訳した。承認いただければホームページに掲載し、無料でダウンロードできるようにする。意見があればお寄せいただき対応する。以下の質疑があった。
 - ・ Definitions をアルファベット順にすると良い。
→対応する。
 - ・ 試験方法の英訳はしないのか？
→量が多く英訳を断念したが、本文を読めばどのような材料を対象としているか誤解がなく理解していただけると判断している。
 - ・ 階層上で Standards は一番上位に位置する。コンクリート委員会の出版物のヒエラルキーを考えると、タイトルは「ガイドライン」の方が良いのではないか。
→再度委員会で検討する。
 - ・ PC は Prestressed Concrete とした方が良い。
→修正する。
- 他に意見があれば 2 週間後までに村木氏に送ることとなった。

(5) 平成 23 年度全国大会「共通セッションテーマ」、「特別セッションテーマ」の募集および「部門別セッション名修正」【資料 4-11-1, 4-11-2, 4-11-3】

服部幹事より、平成 23 年度全国大会「共通セッションテーマ」、「特別セッションテーマ」への募集があり、締切りが 12 月 10 日であることが説明された。案があれば 12 月 3 日までに幹事会（服部幹事）へ送ってほしいとの依頼があった。

(6) 平成 23 年度重点研究課題への募集について【資料 4-12】

信田幹事より、重点研究課題は、分野横断的研究、国際競争力の強化に資する研究、土木の社会貢献に関する研究を対象とした助成であること、募集期間が 1 月 21 日から 2 月 18 日までの予定であることが説明された。積極的な提案が呼び掛けられた。

(7) JST 公募 Web ラーニング教材競争コンペの結果について

宇治委員より以下の説明があった。

- ・ Web ラーニングに応募した。応募総数 12 件の中から採択された 4 件のひとつに入った。ここ 1 年、社会基盤に関するアクセスが増えているようで、採択されたひとつの要因となっている可能性がある。
- ・ コース名を 20 文字以内とするなど制約もあり、タイトルを「環境配慮型建設材料：コンクリート」とした。
- ・ 7 レッソンの構成とする。それらレッスンの内容は、1：概論（環境負荷低減の取組み）、2：都市ごみ焼却灰からエコセメント、3：産業副産物を骨材として有効利用、4：コンクリートの製造・施工技術、5：性能を高めるための混和材料、6：高機能性ポーラスコンクリート、7：環境とエコ評価、である。
- ・ 2 月末に納品される（WEB に掲載される）。

(7) 平成 22 年度全国大会研究討論会研-09「環境調和型コンクリート材料学の創造」

濱田幹事の代理として河合委員から、パネリストが多く質疑の時間を用意できなかったものの、参加者も多く貴重な意見を頂くことができたので、この議論を踏まえ報告書を作成する予定であることが、討論会へのサポートに対する謝意とともに述べられた。

(8) 3 種委員会委員の追加・交代【資料 4-13-1】

岸幹事長より、構造物表層品質（335 委員会）、コンクリートの非破壊評価技術（339 委員会）の委員追加が報告された。

(9) 講習会・シンポジウム等開催案内・報告

以下の講習会、講演会の開催案内および終了報告が行われた。

① 構造物の設計におけるコンクリートの収縮の考慮に関する講習会（案内）【資料 4-14-1】（佐藤委員）；2010 年 12 月 2 日（木）開催（於 主婦会館プラザエフ（東京））、2010 年 12 月 9 日（木）開催（於 建設交流館（大阪））

② 2010 年制定コンクリート標準示方書「規準編」講習会（報告）【資料 4-14-2】（鎌田委員）；2010 年 11 月 10 日（水） 参加者 110 名

報告に引き続き鎌田委員から、規準編はかなり厚く、その重さも 3800g にもなり、また価格も 1 万円を超えていることより、出版の形態や価格などの見直しが必要であるとの意見が述べられた。岸幹事長から、次回示方書の出版時には、初版部数を増やし価格を抑えるなどの方法を出版委員会と交渉することも考えられるとの意見が出された。

③ 第 54 回日本学術会議材料工学連合会（報告）（服部幹事）

無事終了した旨報告された。来年度以降も、3 種委員会の成果の発表の場などとして有効に活用してほしい旨依頼された。

(10) その他

- ・ 宮川委員長より、土木学会の方針として、コンクリート委員会経費を飲食費として使用できなくなったことが報告された。ただし、土木学会の公益法人化がその理由ではない。
- ・ 信田幹事より、今年度出版したコンクリートライブラリーの収支はすべて黒字になっていることが報告された。
- ・ 上田委員より、示方書設計編の英訳版ができたので、WEB サイトにアップするので内容を確認していただきたいとの依頼があった。

5. その他

次回幹事会（案件の締切）：2011 年 1 月 17 日（月）

第 5 回常任委員会：2011 年 1 月 24 日（月）14:00～17:00 予定 土木学会

以 上